

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2012.09) 平成21年度:1.

低出生体重児の頭部および耳介の体圧測定

本村勅子、日野岡蘭子

低出生体重児の頭部および耳介の体圧測定

本村 勅子¹⁾ 日野岡蘭子²⁾

NICU¹⁾看護部²⁾

【はじめに】

新生児集中治療室に入院する患者の急性期は、体位変換が制限されることが多く、それによる局所的な圧迫は容易に褥瘡の原因となる。なかでも頭部や耳は褥瘡の好発部位とされている。褥瘡予防対策としてゲルやウレタン素材の体圧分散寝具を使用しているが、明確な使用基準は担当看護師の判断に任されている現状がある。先行研究においては低出生体重児の体圧と褥瘡発生との関連における調査は少ない。

【目的】

低出生体重児の頭部と耳の体圧値を調査し、褥瘡予防対策を検討する。

【方法】

急性期を脱し保育器収容している測定時体重 1600g 未満の患者 8 名に対し、簡易体圧測定器（セロ[®]、ケーブ社）センサーパット 1 つタイプを使用して、同側の側頭部骨突出部と耳の体圧測定を合計 16 回行った。測定は同一研究者が施行し、連続 3 回測った最高値を採用した。

【結果】

測定時の対象の背景は修正 32.7 ± 3.2 週、日齢 20.7 ± 19.6 日、体重 1114 ± 260g であった。体圧測定値は側頭部骨突出部 18.8 ± 5.3mmHg、耳 16.7 ± 3.9mmHg であり有意差はなかった。体圧分散寝具使用群（N = 7）と非使用群（N = 9）の比較でも差はなかった。

【考察】

測定値は、成人の褥瘡発生分離値である毛細血管圧 32mmHg を越えることはなかった。今回の結果からは、体重の少ない新生児の場合、体圧分散寝具による体圧軽減効果は明確に確認できなかった。このことから、皮膚に低侵襲なりネン（防皺・防摩擦）の選択や同一体位による耳介の圧迫（皮膚の密着）に留意することが重要と考えた。